

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

10月29日(水)～11月3日(月・祝)

かな まる ゆう じ
金丸 悠児 展 一時を運ぶ者たち

2015年の図録出版から10年の集大成としての個展です。麻布や英字新聞の断片、意図的なひび割れなどが混在するユニークなマチエールに悠久の時を象徴するモチーフ、繊細な色の重なり、さらには技法の進化もお楽しみください。



「セイメイの方舟」(30F)

11月5日(水)～10日(月)

さか い のぶ よし
酒井 信義 展 -アトリエのこころみ-

画室の一隅や富士、花や果実をモチーフに、透明感あふれる色彩と端正な造形で時間をかけて丹念に描き出された作品は、対象を取り巻く空気や時の移りまでも画面に宿し、可視と不可視のあわいで揺れ動くような世界を生み出しています。今展では、油彩・ガッシュ・パステルによる小品を中心に、類まれな表現力をもつ画家が描く珠玉の作品の数々を展覧いたします。



「桃」(10P)

11月12日(水)～17日(月)

いわ なが
岩永 てるみ 展 -旅のはじまり-

作家自身が降り立った海外の駅舎や鉄道風景をモチーフに、情緒あふれる世界観を描き出した作品群は、光と影のコントラストが美しい特徴的な構図で日本画の枠を超えた魅力を放ちます。母校である愛知県立芸術大学で准教授を務め、日本美術院特待として院長への出品を続ける岩永てるみ先生の高島屋では初となる個展です。



「アントウェルペン中央駅」(15号)

11月19日(水)～24日(月・休)

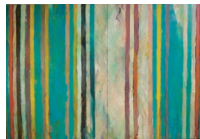
Unknown World
-見慣れた光景とその向こう側-

独自の造形言語を確立した9名の美術家による展覧会です。美術家たちが造形言語によって何を捉え、いかにして表現世界へと組み立て直したのかを読み解き、ひいては造形そのものがもつ力を味わい、鑑賞する喜びで満たされていただきたいと思います。

〔出品作家〕

秋山 陽 (陶造形) 上田 泰江 (ミクストメディア絵画) 岸本 吉弘 (油画)
木戸 修 (彫刻) 草間 結雄 (ファイバーアート) 小島 徳朗 (日本画)
児玉 靖枝 (油画) 重松 あゆみ (陶造形) 西野 康造 (彫刻)
(敬称略・50音順)

〔テキスト〕深谷 訓子 (京都市立芸術大学 総合芸術学科准教授) (敬称略) 「Uptight(部分)」(162.0×260.6cm)



岸本 吉弘

11月26日(水)～12月1日(月)

彫刻になった生き物たち

「物事がうまいく」…午年は幸運な年と言われます。活力、躍動感、力強さ、健康、豊かさの象徴の馬をメインに木、金属、テラコッタなどの様々な素材で動物を表現いたします。お気に入りの一体を探してみてくださいませ。

平野千里「神馬」(41×19.5×高さ44.5cm)



あうん やま もと じ ろう
阿吽 山本 二郎 茶陶展

山本二郎(号:阿吽)先生は1951年京都に生まれ、1973年に京都府立陶工専修職業訓練校図案科を修了後、初代 岡田赤雲氏に師事し、京焼の伝統的な色絵技法を学びました。初個展となる今展では、京風の現代織部ともいえる斬新かつ唯一無二な作風の色絵茶陶作品を一堂に展覧いたします。



「掛分釉幾何学茶盤」
(12.0×11.0×高さ8.5cm)

か とう みつ ひで
加藤 三英 作陶展

先生は瀬戸黒の人間国宝 加藤孝造先生に師事し、黄瀬戸、織部、瀬戸黒という美濃焼の伝統作家として活躍されています。渾身の新作約50点をぜひご覧ください。



「炭化黒茶盤」(13×13×高さ9cm)

せい じ つ がね ひ と む
青瓷 津金 日人夢 作陶展

津金先生の特徴は、美しいフォルムの「青瓷」です。中国宋時代の青瓷の研究を意欲的におこない、青瓷ならではの品格を損なうことなく、自己流の現代的表現を模索しました。日本工芸会を中心に公募展での受賞を重ね、東京国立近代美術館で開催された「青磁のいま」展にて青瓷の現代作家10人に選出されています。ぜひご覧ください。



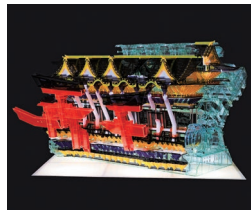
「青瓷 氷裂文鉢」
(27.5×39×高さ11.5cm)

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

10 29 11 10
WED MON

※11月4日(火)は開催いたします。

ふじ た とも いち
藤田 朋一 展 JAPANESQUE



今展のメイン作品となる《1989》は、日本の神社と日本の技術の象徴、1989年のF1世界選手権において活躍したホンダ製V10エンジン、RA109Eをモチーフとしております。日本様式がアクリル素材によって近未来的に表現される藤田朋一先生の世界をお楽しみください。

「《1989》」(113×77.5×高さ60cm／アクリル板組み)

11 12 24
WED MON・休

※11月18日(火)は開催いたします。

おく だ ゆう た
奥田 雄太 展 With Gratitude



令和のアートシーンを牽引する、奥田雄太先生の待望の初個展。「当たり前」と思っていたことが当たり前でなくなる瞬間に誰もが直面する変化の激しい現代社会。当たり前の日常への感謝の花束の作品20点以上が会場を飾ります。

■レセプションパーティー
■日時：11月12日(水)午後4時から
■場所：6階ギャラリーNEXT
※レセプションパーティーはクローズイベントとなりますので一部入場を制限させていただく場合がございます。
※参加方法につきましては美術画廊係員までお問い合わせください。
「Abstract Bouquet 250805 Silver Gradation×Gold」(72.7×60.6cm)

11 26 12 8
WED MON

※12月2日(火)は開催いたします。

てん みょう や ひさし
天明屋 尚 展 千紫万紅



今展では、武者絵、神仏画、道釈画、戯絵、美人画といった古典的な画題を、アクリル絵具や墨を用いて繊細に描き上げた作品を展覧いたします。武者の眼差しに宿る覚悟、神仏の静謐な気配、道釈画に漂う思想、戯絵のいたずらな遊び心、美人画のほのかな微笑み…。画像や紙面では伝わりにくい原画の緻密さと、細部に潜む物語の数々を、この機会にぜひともご覧ください。

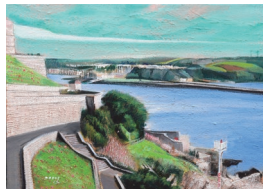
「剣神図」(56.4×39.1cm)

12月3日(水)～8日(月)

やま もと まさ ひで

山本 正英 展 -変容する英国、変わらぬブリティッシュの今を描く-

山本先生が描く「英国風景」は、英国特有の淡く湿り気を帯びた柔らかな陽光と、長い歴史を刻んだ建築と現代建築とが共存する文化的景観とを、独自の色彩と重厚なマチエールにより画面へ重ね合わせることで昇華させています。画家の眼差しによって紡がれた英国の豊かな風景を、この機会にぜひともご高覧ください。



「プリマス港」(24.2×33.3cm)

よし かわ

-空を仰ぐ人- 吉川 かおり 展

動物たちの話す声が聞こえてくるような、粘土とパートド・ヴェール製の優しい吉川かおり先生の世界をお楽しみください。演出の小道具から洋服のシワまで、細やかな制作も必見です。

「少し先の空」
(15.0×11.5×高さ24.8cm／石粉粘土・透明水彩・ガラス)

12月10日(水)～15日(月)

りゅう

颯 RYU

日本画の伝統技法を継承しつつ、現代の感覚で新たな表現に挑み続ける先生方。ひたむきな探求心とたゆまぬ研鑽を重ね、日本画の世界を切り拓く作品の数々をご覧ください。

【賛助出品】林 孝二

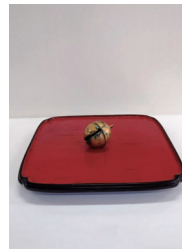
【出品作家】	石橋 志郎	梶浦 隼矢	北川 安希子	後藤 吉晃
	佐竹 龍蔵	竹村 花菜	田村 葵	直海 かおり
	野一色 優美	橋爪 ちなつ	福田 季生	ペリー マキコ
	前田 和子			(敬称略・50音順)

梶浦隼矢「雨の日」
(33.3×24.2cm)

なつ め よう すけ

夏目 陽介 漆芸展

先生の創る根来には、本来の根来の持つ力強さ、荒々しさと同時に、控えて優しい温かさが共存しています。先生の渾身の新作、約50点を一堂に展覧いたします。今回は伝統的な雑器にくわえ、現代的な作品も展覧いたします。



「根来安居屋盆」(31×31×高さ3.5cm)

12月17日(水)～22日(月)

ふく ふく きつ しょう

福福吉祥 展

現代日本画・洋画・現代アートの人気作家に吉祥のモチーフを選んで描いていただきました。福を招く作品の数々をぜひともご高覧ください。

〈出品予定作家〉

秋葉 麻由子	泉 東臣	乾 菜里子	鶴岡 義丈	大浦 雅臣	金丸 悠児	河井 眞里枝	川上 椰乃子
小宮 絵莉	坂本 藍子	佐竹 佳奈	須藤 和之	竹原 美也子	永岡 郁美	塗師 瑛	橋爪 純
長谷川 喜久	福本 百恵	武藤 雅子	安岡 亜蘭	山本 雄教	吉原 拓弥		(敬称略・50音順)

〈モチーフ〉

〈植物〉松 竹 梅	〈生き物〉梟 鶴 亀 鯉 鯛	〈置物〉招き猫 だるま 熊手
〈風景〉富士山 朝日		

た なか よし あき

田中 良昭 作陶展

先生が土の持つ魅力に気付かされたのは20歳を過ぎた頃、まだ修行中だったと語られます。以来、貴重な土との出会いを作品創作の中心に据え、如何に活かすかを考えながら制作しておられます。土とともに変容していく作品をご高覧いただければ幸いです。



「青釉彩皿」(各径22×高さ3cm)

12月24日(水)～1月5日(月)

しん しゅん ことは しゅ き

現代工芸家による 新春を寿ぐ酒器展

近畿圏を中心に活躍し、21世紀のアートシーンを牽引する作家21名による、酒器をメインとするグループ展を開催いたします。今展では陶磁器とガラス素材の杯、ぐい呑、徳利、片口などの酒器に加えてお正月の床飾りや、お初釜の茶器としてお使いいただける各作家の作品も同時に展覧いたします。

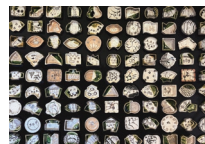
【陶磁器】	井倉 幸太郎	井尻 杏那	井上 真利	大上 裕樹	鍵谷 雅美	北浦 真保
	小孫 哲太郎	鹿谷 敏文	瀧 知子	中村 宏太郎	檜木 淑子	西 崇
	前田 あかね	松田 昂	三島 寛也	山田 浩之	渡辺 大輔	
【ガラス】	加藤 千佳	佐々木 伸佳	白藤 晴久	田仲 哲也	以上21名	

(素材別・敬称略・50音順)

みの あん どう まさ ひこ

美濃 安洞 雅彦 織部展

安洞雅彦先生は1973年名古屋にて祖父の代から続く古美術商に生まれ、当初の音楽活動の生活から一転2002年より陶芸の道へ進まれました。初個展となる今回は代表作である数百種に及ぶ織部や志野の豆向付をはじめ、御深井焼の向付、黒織部、鳴海織部、織部黒、絵志野などの茶器や酒器、美濃唐津の作品など、まさに「へうげもの」として名を馳せた古田織部好みのうつわの数々を一堂に展覧いたします。

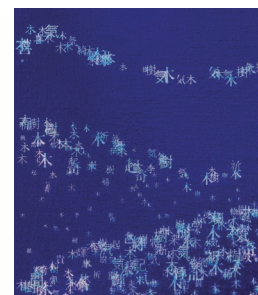
「織部豆向付各種」
(およそ10×10×高さ3cm前後)

TAKASHIMAYA
Art Information
2025 11・12月
高島屋大阪店6階ギャラリーNEXTのご案内

12月10日(水) 10 WED 22 MON ※12月16日(火)は開催いたします。

おお たに よう いち ろう

大谷 陽一郎 展 /ki/



木、気、祈、希、喜、季、記…。「キ」と発音される無数の漢字をキャンパスの画面に配し、色彩の濃淡によって山々の姿が立ち上がる作品は、ひとつの音が呼び込む多義性が形と共鳴し、山がもつ文脈へと接続していきます。文字は単なる記号を越え、自然のささめきや気韻、祈りといった多層の意味を帯び、重なり合いながら像を結びます。文字が響きあうことで生まれる、新たなかたちの可能性を探る作品をご覧ください。

「ki #43」(53×41cm※部分)

12月24日(水) 24 WED 1 5 MON ※12月30日(火)は開催いたします。

おお かわら あい

大河原 愛 鼓膜に残る静寂を優しさに変えるすべについてⅡ



13年ぶりの大河原愛先生の個展となります。豊かと言われる現代社会が置き去りにしている人々…そこに寄りそうまなざしを油彩、ミクストメディア、コラージュ作品、約25点の新作から感じていただけましたら幸いです。

「光降る森17」(30.2×30.2cm)